

## 2 晩植「どんとこい」の籾数と収量・品種

### ねらいと成果

水稻品種「どんとこい」は、平成8年に本県奨励品種に採用され、良食味品種への作付転換方針の主要品種として位置づけられている。平成10年度の作付面積は約3,500haで、今後も増加が期待されている。「どんとこい」は、極早生種であるため、県南部では5月末までに移植するのが望ましい。しかし、麦の生産振興とともに、麦跡を想定した晩植での安定栽培上の生育特性を把握する必要があると検討した。

その結果、6月下旬稚苗移植の本試験の例では、品質を低下させないで、安定した収量を得るための籾数の上限は、32,000粒/㎡程度と推察された。

### 内容

6月1日に播種し(乾籾130g/箱)、6月22日に移植した。栽植密度(株/㎡)は、24.5とし、出穂期に1株当たり無切除、3穂、5穂、8穂除去として、穂数の制限により㎡当たり籾数を調節する条件

を設定した。

その結果、穂を切除すると穂数を制限し、㎡当たり籾数が減少するが、籾摺歩合は逆に向上し、屑米(粒厚1.8mm未満)、被害粒の減少など登熟が良化する傾向がうかがわれた(表1・2)。

県南部で5月末に稚苗移植した場合、㎡当たり籾数が35,000粒程度を超えると、品質が低下するとの報告がある。本試験のような6月下旬植えては、5月末移植より生育期間が短くなり、生育環境条件も悪化すると考えられる。それ故、死米の発生率、検査等級などから、品質の指標となる㎡当たり籾数の上限のめやすは約32,000粒程度と少なくなる。

### 今後の方針

麦跡で栽培する場合の「どんとこい」安定良質多収栽培の一つの事例として活用する。

田中萬紀穂(中央農技・作物部)

表1 栽植密度、穂の切除による生育への影響

区 No.	穂切除数	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	一穂籾数	㎡当たり籾数	全重 (kg/a)	籾摺歩合 (%)	精玄米重 (kg/a)	同左比率 (%)
1	0	78	16.7	441	76	33,516	122	71	47.7	100
2	3	75	17.5	426	74	31,524	124	75	50.9	107
3	5	75	16.8	314	82	25,748	104	77	44.8	94
4	8	72	17.0	260	76	19,760	81	78	34.9	73

表2 粒厚分布並びに玄米品質の区間差

区 No.	粒厚分布 (%)		精玄米 千粒重 (g)	玄米形質 (%)					検査等級
	1.8 mm 以上	1.8 mm 未満		腹白	心白	乳白	死米	茶米	
1	91.0	9.0	21.2	7.6	0.6	0.9	1.9	0	1中
2	92.8	7.2	21.2	4.5	0	1.2	1.1	0	1上
3	94.8	5.2	21.2	2.0	0	0.3	0	0.1	1上
4	95.6	4.4	21.3	2.7	0.1	0.9	0.6	0.3	1上

注) 検査等級は、神戸食糧事務所社支所の調査による。